

5 団体旅行商品の訪問地

東京や大阪の他、テーマパークや富士山周辺にも
台湾発は地方ブロック内、中国発は日本列島周遊が目立つ

(1) 台湾・香港・中国発の団体旅行商品の訪問地

団体旅行商品の利用率が他国に比べて高い台湾、香港および中国を調査対象として当財団が独自に実施した「訪日団体旅行商品調査」(注)の結果をもとに、これらの国・地域における訪日団体旅行の訪問地(都道府県)の実態を整理する。同調査は、台湾、香港および中国の大手旅行会社11社によりインターネット上で販売されていた訪日団体旅行商品を対象として、15年2月下旬に3月出発分、同年3月下旬に4月出発分の商品情報を収集した。収集した商品数は計1,502商品であり、国・地域別では台湾発が1,046商品、香港発が121商品、中国発が335商品である(3月と4月の両月に同じ商品が販売されていた場合には1商品としてカウントしている)。

本調査の結果をもとに、訪日団体旅行商品の訪問地ランキングを作成した(表II-5-1)。同表を見ると、台湾、香港、中国ともに「東京都」と「大阪府」がそれぞれ1位と2位を占めており、これら2都府が日本を代表する訪問地であることが分かる。3位は出発地の国・地域によって異なり、台湾では日本を代表する歴史観光地である「京都府」、香港では東京ディズニーランドなどが立地する「千葉県」、中国では富士山の立地する「山梨県」が3位であった。

出発地の国・地域別に訪問地別の商品数を見ると、台湾発では「東京都」「大阪府」に次いで「京都府」「千葉県」「北海道」の順で多い。このうち、「北海道」が上位5位に入った国・地域は台湾のみであり、北海道は香港や中国に比べ台湾の団体旅行者に人気があることが分かる。台湾発の団体旅行商品の全

(注) (公財) 日本交通公社「訪日団体旅行商品調査」調査概要
調査時期：2015年2月23日、24日、25日(3月発の団体旅行商品調査)
2015年3月20日、23日、24日(4月発の団体旅行商品調査)
調査方法：インターネットによる情報収集
対象地域：台湾、香港、中国
調査対象：大手旅行会社11社(台湾5社、香港2社、中国4社)
有効商品数：1,502商品。台湾3月発664商品、4月発665商品、計1,046商品
香港3月発72商品、4月発105商品、計121商品。中国3月発210商品、4月発172商品、計335商品(3月と4月の両月に同じ商品が販売されていた場合には1商品としてカウントしている)

表II-5-1 訪問地別に見る団体旅行商品数ランキング

順位	台湾	香港	中国
1位	東京都(215)	東京都(33)	東京都(261)
2位	大阪府(190)	大阪府(31)	大阪府(234)
3位	京都府(182)	千葉県(28)	山梨県(232)
4位	千葉県(172)	兵庫県(24)	京都府(230)
5位	北海道(159)	神奈川県(22)	静岡県(199)
6位	福岡県(156)	山梨県/ 京都府/ 熊本県(18)	神奈川県(168)
7位	神奈川県(155)		愛知県(88)
8位	長野県(150)	静岡県/ 宮崎県(17)	北海道(67)
9位	山梨県(142)		奈良県(46)
10位	熊本県(140)		福岡県(36)

資料：(公財) 日本交通公社「訪日団体旅行商品調査」(2015年3月、4月出発分)

※カッコ内の数値は商品数である。

体的な特徴は訪問地のラインナップが豊富なことであり、3月と4月の商品全体で47都道府県全てを網羅している(表II-5-2および図II-5-1)。

表II-5-2 都道府県別に見る団体旅行商品数と訪問率

地方ブロック	都道府県	団体旅行商品数					
		台湾発		香港発		中国発	
		商品数	訪問率	商品数	訪問率	商品数	訪問率
北海道	北海道	159	15.2%	16	13.2%	67	20.0%
東北	青森県	49	4.7%	2	1.7%	2	0.6%
	岩手県	60	5.7%	4	3.3%	2	0.6%
	宮城県	59	5.6%	4	3.3%	2	0.6%
	秋田県	58	5.5%	2	1.7%	3	0.9%
	山形県	33	3.2%	0	0.0%	0	0.0%
	福島県	4	0.4%	6	5.0%	0	0.0%
関東	茨城県	4	0.4%	0	0.0%	0	0.0%
	栃木県	20	1.9%	6	5.0%	2	0.6%
	群馬県	44	4.2%	0	0.0%	0	0.0%
	埼玉県	31	3.0%	2	1.7%	3	0.9%
	千葉県	172	16.4%	28	23.1%	21	6.3%
	東京都	215	20.6%	33	27.3%	261	77.9%
	神奈川県	155	14.8%	22	18.2%	168	50.1%
	新潟県	11	1.1%	3	2.5%	1	0.3%
	山梨県	142	13.6%	18	14.9%	232	69.3%
	中部	富山県	110	10.5%	6	5.0%	4
石川県		124	11.9%	9	7.4%	2	0.6%
福井県		16	1.5%	7	5.8%	0	0.0%
長野県		150	14.3%	10	8.3%	14	4.2%
岐阜県		130	12.4%	8	6.6%	19	5.7%
静岡県		75	7.2%	17	14.0%	199	59.4%
愛知県		104	9.9%	8	6.6%	88	26.3%
三重県		15	1.4%	3	2.5%	16	4.8%
滋賀県		75	7.2%	6	5.0%	2	0.6%
京都府		182	17.4%	18	14.9%	230	68.7%
大阪府		190	18.2%	31	25.6%	234	69.9%
兵庫県		136	13.0%	24	19.8%	12	3.6%
奈良県		129	12.3%	12	9.9%	46	13.7%
和歌山県	44	4.2%	9	7.4%	1	0.3%	
近畿	鳥取県	10	1.0%	5	4.1%	0	0.0%
	島根県	11	1.1%	0	0.0%	0	0.0%
	岡山県	37	3.5%	15	12.4%	1	0.3%
	広島県	27	2.6%	13	10.7%	1	0.3%
	山口県	25	2.4%	6	5.0%	1	0.3%
	徳島県	22	2.1%	2	1.7%	0	0.0%
	香川県	36	3.4%	12	9.9%	3	0.9%
	愛媛県	28	2.7%	10	8.3%	0	0.0%
	高知県	10	1.0%	0	0.0%	0	0.0%
	九州	福岡県	156	14.9%	14	11.6%	36
佐賀県		87	8.3%	8	6.6%	7	2.1%
長崎県		98	9.4%	12	9.9%	6	1.8%
熊本県		140	13.4%	18	14.9%	9	2.7%
大分県		118	11.3%	8	6.6%	11	3.3%
宮崎県		40	3.8%	17	14.0%	0	0.0%
沖縄	鹿児島県	49	4.7%	11	9.1%	0	0.0%
	沖縄県	77	7.4%	10	8.3%	15	4.5%
商品総数		1,046	100.0%	121	100.0%	335	100.0%
調査旅行会社数		5社		2社		4社	

資料：(公財) 日本交通公社「訪日団体旅行商品調査」(2015年3月、4月出発分)

次に香港発の訪問地別商品数を見ると、「東京都」「大阪府」に次いで「千葉県」「兵庫県」「神奈川県」の順が多い(表II-5-1)。4位の「兵庫県」は、近畿地方を訪問する団体旅行商品の他、中国・四国地域を訪れる商品の一部でも同県を訪れていることから商品数が多くなっている。一方、本調査で情報収集した団体旅行商品には「山形県」「茨城県」「群馬県」「島根県」「高知県」を訪問する団体旅行商品は、調査対象商品のなかでは見当たらなかった(表II-5-2および図II-5-1)。

中国発では、「東京都」「大阪府」に次いで「山梨県」「京都府」「静岡県」の順となった(表II-5-1)。富士山周辺(山梨県および静岡県)の人気の高さがうかがえる。一方、本調査で情報収集した団体旅行商品には「山形県」「福島県」「茨城県」「群馬県」「福井県」「鳥取県」「島根県」「徳島県」「愛媛県」「高知県」「宮崎県」「鹿児島県」を訪れる商品がなく、台湾や香港に比べ訪問地に偏りが見られる(表II-5-2および図II-5-1)。

(2) 地方ブロック別の訪問地の特徴

全体的な傾向としては、台湾発では各地方ブロック内を周遊する団体旅行商品が多いのに対し、香港発や中国発の団体旅行商品では複数の地方ブロックをセットにしたものが多い。特に、中国発の団体旅行商品を見ると、複数の地方ブロックをセットにした日本列島を周遊する商品が目立った。

地方ブロックごとに台湾・香港・中国発の訪日団体旅行商品の訪問地の傾向を述べる(表II-5-2および図II-5-1)。

●北海道

北海道を訪れる団体旅行商品を見ると、台湾発と香港発の旅行行程はそのほとんどが北海道のみを訪れるものであったが、中国発では北海道と本州をセットにした日本周遊型の商品が多い。函館や小樽など著名な観光地を商品名に付した商品や、スキー体験や流水体験を組み込んだ商品も見られた。

●東北

北東北三県(青森県・岩手県・秋田県)と仙台を訪れる旅行商品が多い。特に、4月出発分の商品では花見ツアーが目立つ。花見スポットとしては、弘前城公園や角館かくのたて、北上展勝地しほがま、鹽竈神社、船岡城址公園などが見られた。

●関東

東京都および神奈川県を訪れる商品数が圧倒的に多い他、東京ディズニーランド/東京ディズニーシーの立地する千葉県や、富士山の立地する山梨県を訪れる商品も少なくない。一方、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、新潟県を訪問する商品数は少なく、特に茨城県を訪れる団体旅行商品は台湾発の4商品のみと最も少なかった。

●中部

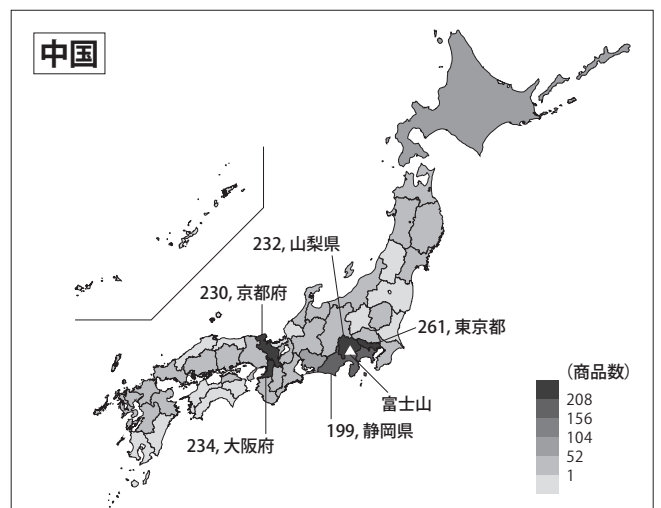
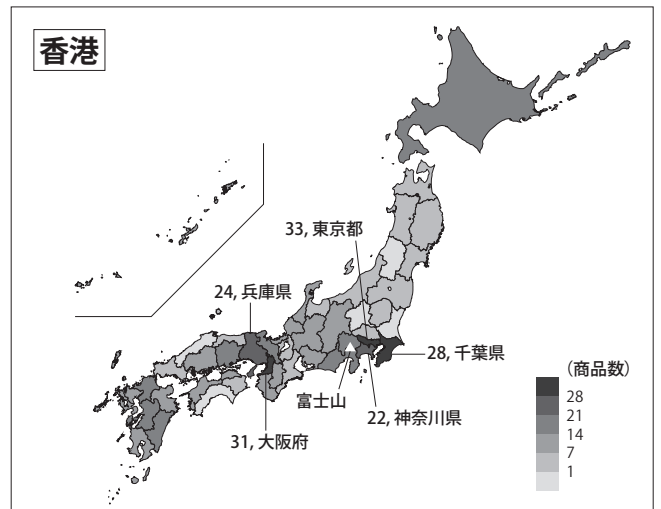
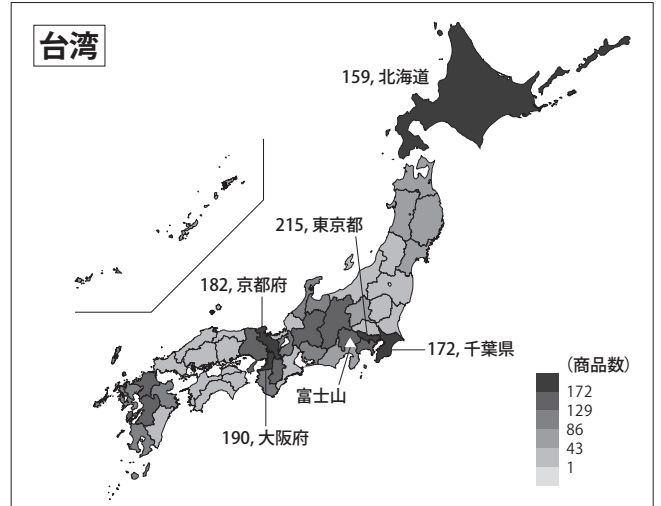
静岡県と愛知県を訪問する商品が多い。特に、中国発の団体旅行商品では、富士山の眺望の良い平和公園(御殿場市)を訪れるものが目立つ。愛知県では名古屋を訪問するツアーが多く、特に中国発の団体旅行商品では本州周遊ルートの訪問先の一つに位置づけられている。また、4月中旬からの立山黒部アルペンルートの開通に伴い、名古屋を中部周遊の観光拠点の

一つとして組み込んだ台湾発の商品も少なくない。

●近畿

近畿地方では大阪府と京都府に集中している。台湾発では近畿地域のみを訪問する旅行商品が多く見られたが、香港発や中国発では中国・四国地域や関東地域をセットにした団体旅行商品も少なくない。

図II-5-1 都道府県別に見る団体旅行商品数マップ



資料：(公財)日本交通公社「訪日団体旅行商品調査」(2015年3月、4月出発分)

●中国・四国

中国地方の場合は、岡山県と広島県を訪れる商品が多かった。一方、四国地方の場合は、香川県と愛媛県が主な訪問先であった。ただ、他の地方ブロックと比べると、中国・四国地方の商品数は全体的に少ない。

●九州

九州地方では、北部九州（福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県）を訪問する団体旅行商品が多かった。なかでも最も多い訪問地は福岡県である。福岡県は九州を代表する訪問地であるとともに、九州を訪問する多くの旅行商品が同県を玄関口として利用していることが分かる。

●沖縄

沖縄本島を訪れる団体旅行商品がほとんどであり、離島を訪れるものは少数である。3月および4月出発分を見る限り、離島を訪問する団体旅行商品は久米島（1商品）と宮古島（1商品）のみであった。

(3) 国・地域別の団体旅行商品の特徴

出発地の国・地域別に、団体旅行商品の内容について、その傾向を詳しく述べる。

●台湾発の団体旅行商品

台湾発の団体旅行商品では、日本での滞在日数が5日間の商品が多い。ただし、沖縄県を訪れる商品では4日間の商品が主流となっている。

商品数上位の都道府県ごとにその観光地を詳しく見ていくと、1位の東京都では「浅草」と「お台場」を訪問する団体旅行商品が多い（表II-5-3）。2位の大阪府では「心齋橋」「道頓堀」「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン」、3位の京都府では「嵐山」「清水寺」「祇園」といった地名が目立つ。4位の千葉県は「東京ディズニーランド」「東京ディズニーシー」が中心である。5位の北海道では「札幌」の他「小樽」「登別」「函館」といった観光地が目立った。また、「クマ牧場」「旭山動物園」「大沼公園」といった施設名や、「温泉」「グルメ（特に、カニ）」といった旅行の楽しみ方を商品名に冠した商品も見られた。九州では福岡県と熊本県が上位にランクインしているが、九州地方で商品数の多い観光地は「太宰府」「博多」「阿蘇」「熊本」である。7位の神奈川県では「芦ノ湖」や「大湧谷」といった箱根エリアを訪れる団体旅行商品が圧倒的に多く、また9位の山梨県（「山中湖」「忍野八海」など富士五湖エリアが中心）への訪問がセットになった商品も多い。8位の長野県の主な観光地は軽井沢である。ただ、4月中旬からの立山黒部アルペンルート開通の影響で3月に比べ4月の商品数が多く、「松本」や「上高地」を周遊するツアーも多く見られた。

旅行内容としては、テーマパークを訪れる団体旅行商品数が多い点が台湾発商品の特徴であった。千葉県の「東京ディズニーランド/東京ディズニーシー」と大阪府の「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン」、長崎県の「ハウステンボス」を合わせると、テーマパークを訪れる月ごとの団体旅行商品数は同総数のおよそ3割を占めた。また、4月出発分では花見ツアーの増加も顕著

であった。この他、サイクリングや登山、マラソン、写真撮影、四国八十八ヶ所巡りといったテーマを取り上げた商品も見られ、台湾での訪日団体旅行商品に対する多様なニーズの存在がうかがえる。

●香港発の団体旅行商品

香港発の団体旅行商品では、日本での滞在日数が4～7日間の商品が見られるが、なかでも5日間の商品が多い。

商品数上位の都道府県ごとにその観光地を詳しく見ていくと、1位の東京都では「新宿」「浅草」を訪問する商品が目立った（表II-5-4）。2位の大阪府では「心齋橋」「大阪城」「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン」、3位の千葉県では「東京ディズニーラ

表II-5-3 台湾発の団体旅行商品の主な観光地

順位	都道府県	主な観光地（順不同）
1位	東京都	浅草、お台場
2位	大阪府	心齋橋、道頓堀、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン
3位	京都府	嵐山、清水寺、祇園
4位	千葉県	東京ディズニーランド、東京ディズニーシー
5位	北海道	札幌、小樽、登別、函館
6位	福岡県	太宰府、博多
7位	神奈川県	芦ノ湖、大湧谷
8位	長野県	軽井沢、松本、上高地
9位	山梨県	富士五湖、忍野八海
10位	熊本県	阿蘇、熊本

資料：（公財）日本交通公社「訪日団体旅行商品調査」（2015年3月、4月出発分）

表II-5-4 香港発の団体旅行商品の主な観光地

順位	都道府県	主な観光地（順不同）
1位	東京都	新宿、浅草
2位	大阪府	心齋橋、大阪城、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン
3位	千葉県	東京ディズニーランド、東京ディズニーシー
4位	兵庫県	神戸（北野異人館、ハーバーランド）
5位	神奈川県	横浜、芦ノ湖
6位	山梨県	忍野八海、富士急ハイランド
	京都府	嵐山、清水寺
	熊本県	阿蘇火山、草千里
9位	静岡県	平和公園（御殿場市）、伊豆半島
	宮崎県	高千穂峡

資料：（公財）日本交通公社「訪日団体旅行商品調査」（2015年3月、4月出発分）

表II-5-5 中国発の団体旅行商品の主な観光地

順位	都道府県	主な観光地（順不同）
1位	東京都	上野、皇居、銀座、浅草、秋葉原、お台場
2位	大阪府	心齋橋、大阪城
3位	山梨県	忍野八海、富士山五合目、河口湖
4位	京都府	嵐山、金閣寺、祇園、平安神宮
5位	静岡県	平和公園（御殿場市）、浜名湖
6位	神奈川県	箱根、横浜、八景島、相模湖
7位	愛知県	名古屋
8位	北海道	札幌、小樽、函館、登別、洞爺湖、富良野
9位	奈良県	奈良公園、東大寺、春日大社
10位	福岡県	太宰府、博多

資料：（公財）日本交通公社「訪日団体旅行商品調査」（2015年3月、4月出発分）

ンド「東京ディズニーシー」が多く、台湾同様にテーマパークの人気がうかがえる。4位の兵庫県では「神戸」の北野異人館やハーバーランドなどを訪れる商品が多い。5位の神奈川県では「横浜」「芦ノ湖」、6位の山梨県では「忍野八海」「富士芝桜まつり」「富士急ハイランド」、同じく6位の京都府では「清水寺」「嵐山」、熊本県では「阿蘇火山」「草千里」といった観光地が目立った。9位の静岡県では富士山のビュースポットである「平和公園」の他、伊豆半島を訪れる商品も少なくない。同じく9位の宮崎県では「高千穂峡」が多かった。

旅行内容としては、一般的な周遊観光の他、写真撮影を目的とする旅行商品や、九州旅客鉄道株式会社が提供するクルーズトレイン「ななつ星 in 九州」に乗車する商品も見られた。

●中国発の団体旅行商品

中国発の団体旅行商品では、日本での滞在日数が6～7日間の商品が多い。ただし、沖縄県を訪れる商品では5日間の商品が大半であり、台湾と同様にやや滞在日数が短い。

上位であった訪問先の人気観光地を見ると、1位の東京都では「上野」「皇居」「銀座」「浅草」「秋葉原」「お台場」などを訪れる商品が目立った（表II-5-5）。2位の大阪府では「心斎橋」

「大阪城」が多いが、台湾や香港とは異なり「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン」を訪問する商品は少ない。3位の山梨県では「忍野八海」「富士山五合目」「河口湖」など富士山周辺の観光地を訪れる商品が多い。4位の京都府では「嵐山」「金閣寺」「祇園」「平安神宮」などの観光地が目立った。5位の静岡県では「平和公園」の他、「浜名湖」を訪れる商品も見られた。6位の神奈川県では「箱根」「横浜」「八景島」「相模湖」、7位の愛知県では「名古屋」が多い。8位の北海道では「札幌」「小樽」「函館」「登別」の他、「洞爺湖」や「富良野」といった地名も見られ、台湾に比べると訪問先が多様である。9位の奈良県では「奈良公園」「東大寺」「春日大社」、10位の福岡県では「太宰府」「博多」といった地名が目立った。なお、九州地方を訪問する中国発の団体旅行商品のほとんどは福岡県を訪問していた。

旅行内容としては、日本列島を幅広く周遊するツアーが多い点である。典型的なパターンは東京、中部（名古屋）、近畿（大阪、京都）、富士山周辺（箱根、富士五湖、平和公園）を巡るツアーであるが、これらに加えて北海道または九州を訪問する商品も目立った。

（徐 中菀）